

甦る沖縄力



沖縄振興審議会委員
(財団法人 おきなわ女性財団 常務理事)
友利 敏子

(明治三十六、昭和三十八年)の「会話」という詩の一節である。「日本人になりたくてなれなかつた日本人」といった政治家もいた。

お国は？と女が言った
ずつとむかふ…
ずつとむかふとは？
南方。南方とは？…
南方は南方。…常夏の地帯、
竜舌蘭と梯梧と阿旦とパイ
ヤなど…あれは日本人ではな
いとが日本語は通じるかなど、
談じ合いながら世間の既成概
念達が寄留するあの僕の国…
亜熱帯。アネッタイ！
世間の偏見達が眺める…
沖縄の代表的な詩人山之口嶺

中央指向の単一価値観が綻び
始めると、あつという間に多様
な視点が拡がった。都会化が遅
れた島々は、鮮烈な個性となり、
失われた魂の故郷となった。沖
縄やアネッタイはマイナーなも
のではなく癒しの地となり、島々
は本来のパワーを甦らせた。
賛否両論はさておき同じ土俵
に立てた日本復帰(昭和四十七
年)が、大きな節目となった事
は否めない事実である。大小の
島々に確固たる所屬が定まり、

安心してそれぞれの個性を主張
する事が出来る様になった。ア
メリカ世からヤマト世を同化で
はなく世替りと認識した沖縄的
アイデンティティは、十四世紀
から十五世紀にかけて「向う方
撓て」の精神で大交易時代を経
験したインターナショナルカジ
マヤーの心意気を取り戻した。
沖縄本島から南西へ約三百
十km、二百二十六kmの隆起珊瑚
礁の三角形の宮古島。視野を遮
る物の無い真直な道をドライブ
していると、まるで大陸のハイ

ウェイに在るような錯覚になる
と来島者達は口を揃えて言う。

山もなければ川もない島の水
源は地下水である。この命の源
である地下水を化学肥料の硝酸
性窒素汚染から守る取組みと土
づくりを通して島の農業発展を
目指した宮古農林高等学校環境
班は、島の土壌から分離、選
抜した「Bio-IP(バイオ
リン)」の研究開発をスタートさ
せた。島の基幹農作物の甘庶の
バガスや糖蜜などを利用し有機
酸生成性能を有する微生物の機
能を活用し化学肥料使用により
土壌に蓄積されたリン酸を分解
し再利用することから、化学肥
料を減らす事が出来るというの
である。

このような地道な九年間の取
り組みを、where is
the Miyakojima
island?で始まる会話形
式のプレゼンテーションは決し
て流暢な英語ではなくむしろ宮
古島訛風英語が好感度抜群で評
価アップ。見事、二〇〇四年度
第八回「ストックホルム青少年
水大賞」を受賞、小さな島の高
校生徒が「水のノーベル賞」に
輝いたのである。

昨年シーズン女子プロゴルフ

ツアーで五勝を挙げた東村の宮
里藍(十九才)は、二〇〇五年
度も絶好調で、二月十一、十三
日南アフリカで行われた第一回
女子ゴルフワールドカップを北
田瑠衣とのペアで制覇。初代世
界チャンピオンを獲得し一躍
世界のAへと躍り出た。優勝
インタビューでの爽やかな藍ち
やんスマイルの英語でのコメン
トは、世界一を妙に納得させた。
世界へ羽ばたく為の十分条件で
ある英語は沖縄という環境こそ
学習の立地条件として最適であ
り、英語特区の増設と強化に一
段と弾みをつけた。

沖縄科学技術大学院大学(OIST)の創設学長のシドニア・ブ
レーナ博士は、日本、アジア太
平洋地域、そして世界全体の科
学に大きな影響を与えたいと講
演で述べ、世界最高水準(Best
in the world)
を目指す沖縄の新時代のウオー
ミングアップが始動した。

長年培ってきた沖縄人のイチ
ヤリバチヨーデー・ヌチドタカ
ラの心をベースにしたホスピタ
リティで、甦った沖縄力を全開
し世界へ発信して行く未来図に
夢が膨らむ。